



小・中学校合同部会報告 7月27日(金) @ 名古屋市中小企業振興会館

小・中学校合同部会では、小学校、中学校それぞれの分野の部長や副部長、推進部員に加え、多くの同好会員にも参加していただき、協議を行いました。異校種からの様々な意見によって話し合いは白熱し、対面での協議のよさを改めて感じる事ができました。

小学校では、単元で目指す子どもの姿を設定し、その子どもの姿に迫るための、教材化の工夫や学習活動の工夫について協議しました。教材化の工夫では、教材化の要件である「多様化」や「人の

営み」、「価値観」という3点について協議しました。また、学習活動の工夫では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的に充実させるために、どのような活動を組み合わせるとよいのかを協議しました。

中学校では、11月に行われる全中社研名古屋大会の本実践について協議しました。単元計画や本時の授業の流れを中心に協議し、全中社研名古屋大会の提案に向けた充実した協議を行うことができました。



【御指導・御助言】名古屋市社会科研究会副委員長 梅村 元 先生

○ 小学校の実践について

予想される子どもの姿や、子どもの変容をしっかりと想定してほしい。特に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実重点を置いて実践に取り組んでいるので、教師がどのような支援をすることで、子ども自身が最適な学びをどのように判断しながら学習していったのかということや、学習の中で誰とどのように交流し、学び合ったのか。その結果、どのように子どもが変容していったのか、その流れを示してほしい。

また、つなぐ段階での考えを前段階までの学習を踏まえたものにしていくことが大切である。最後の問いが、抽象的になり過ぎたり、学習のめあてを捉えづらいものにしてしまうと、子どもは学習の成果ではなく生活経験を基に答えてしまうことがある。学習の最後にふさわしい問いかをよく考えてほしい。

○ 中学校の実践について

多様化する社会を生きる子どもを育てるためには、異なる立場・価値観の存在を認めた上で、どのように合意形成を図るのか、その力を身に付けさせることが重要である。この実践を通して経験したことは、生徒の将来にきっと生きてくる。

また「各分野の側面から人間の生き方を問い続けていく」ということが明確に示されている。他にも「予想される・期待される生徒の意識」として、子どもの思考の変容や教師の働き掛けが示されている。ここには、子どもに与える話し合いのテーマや、話し合いの前にどのようにして子どもに考えをもたせるのかなどが細かく記載されているため、小学校の先生はよく読んで参考にしてほしい。

○ 合同部会について

「人間の生き方を問い続ける社会科学習」の実現のための取組を、小・中学校の先生が集まって学び合うことができた大変有意義なものとなった。特に小学校の先生は、中学校の実践から多くのことを学ぶよい機会となった。社会科教師としてのご自身の成長に生かして行ってほしい。

【第293号 紙面】

小・中学校合同部会報告	(p1)
訪問インタビュー 近藤 啓二 先生	(p2・3)
フィールドワーク活動報告	(p4・5)
授業力アップ研修グループ・今後の予定	(p6)



訪問インタビュー

近藤 啓二 先生

昭和57年、成章小学校に着任。以降、田代小、有松小、御器所小、老松小を経て、榎小学校長に。その後、弥富小、白沢小学校長を歴任されました。

現在は、名古屋市立小中学校PTA協議会事務局長としてご活躍されています。

名古屋市の社会科教育を発展させるため、社会科同好会会長を務められた近藤啓二先生。先生の豊富なご経験を基に、今の教育現場に思われることや今後の同好会活動を充実させるための貴重なお話を伺いました。

名古屋市立小中学校PTA協議会での仕事について

各小中学校のPTA活動では、子どもの安全や学習環境を守るための活動や広報活動、保護者や教職員が学ぶ場の企画・運営、他団体との連絡調整が行われています。このような活動を、名古屋市立小中学校PTA協議会では、名古屋市レベルで行っています。例えば、全市一斉のパトロール、全市の学習会や研修会、関係機関との連携や働きかけ、市PTA新聞の発行、東海北陸や日本PTAの行事への参加などです。特に今年は、PTA東海北陸ブロック研究大会が名古屋で行われるので、今はその成功に向けて準備に追われています。

認めてもらうことのうれしさ

良い授業は昔から何も変わっていないと思っています。それは、子どもが生き生きと活動している授業です。私は、体験活動を取り入れた授業を多く行ってきました。社会科では、伝統工芸の学習で、金箔貼り体験に四苦八苦しながら伝統の価値に気付く子どもの姿や、再生紙作りとその活用を通して環境保全の意味に気付く子どもの姿が印象に残っています。生活科では、昆虫の飼育の際、すみかに水飲み場や遊び場を作ったり、窓をつけたりと様々な工夫を子どもたちが行い、牛乳パックやペットボトルのいかだを作る授業では、人が乗っても沈まない工夫を何度も試す姿が見られました。これらの実践を通して、私は「知りたい!」「やってみたい!」という興味をもたせる「しかけ」の大切さを実感しました。「はやり・すたり」の言葉は様々ありますが、子どもが新たな発見をし、意欲的に取り組むようにするために、教師がしっかりと「しかけ」をし、明確な観点のもとでの評価と分析が大切だということも今も変わりはないと思います。

平成16年に全国小学校社会科研究協議会研究大会が行われた際、私は会場校の教務主任として実践に関わっていました。授業実践を進める中で、子どもの発言に共感する先生の姿があったり、それぞれの先生の授業内容の質が上がったりしていく様子を見ることができました。また、授業日の直前まで、学習活動や子どもの発言について議論を繰り返したり、掲示物を協力して作成したりしている様子を目の当たりにしました。学校全体が一つにまとまっていく様子に、とても感動したことを覚えています。しかし、そこに至るまでには、うまくいかないことや意見の対立もあり、辛い時期もありました。そんなとき、「大丈夫」「頑張ってるね」「ありがとう」といった先輩の言葉に、私は何度も救われました。励まし認めてもらえたことはその後の大きなエネルギーとなりました。

同好会に集まる仲間は、何かを得たいという気持ちでいると思いますし、そのために努力をし続けていると思います。例えば、活動に参加してよかったと思える気持ちもその一つです。私の場合は、発表された実践に対する議論の激しさや、帰り道での他の学校の先生との情報交換などが参加してよかったと思えるものでした。

実践研究においては、誰かに遠慮して言いたいことが言えなくなってしまうと思います。もちろん失礼な言動や行動はいけませんが、これからも自分が思ったことは言える同好会であってほしいと思います。それは、研究の前では、みな平等だからです。自分の実践を批判されることもあるでしょうが、認めてもらえたとき、次の実践のエネルギーになると思います。

一人では越えられないことも、仲間がいれば越えられることもある

転勤先の学校では、社会科を研究されている先輩が多く、社会科同好会に入会するきっかけとなりました。先輩方から「教員は授業で勝負だ!」と何度も言われ、私なりに実践を重ねました。しかし、準備を重ねに重ねた授業ほど、予期しなかった子どもの反応に戸惑うことが多くありました。その都度、自分の授業を反省し、原因を分析し、「いい手本」となる先輩方を思い出しては、「先輩のように授業が上手になりたい」という気持ちを高め、実践を続けていたように思います。

また、授業実践に限らず、教員を続けている中で多くのピンチがありました。その度に、同僚の先生方はもちろん、保護者や地域の方に何度も助けいただきました。私はとても恵まれていたと思います。一人では越えられないことも、仲間がいれば越えられると感じています。

「やっけていてよかった!」と思える瞬間のために

教員という仕事は、人を育てるすばらしい仕事だと思えます。辛いことも多いですが、たまに訪れる良いことのために続けてきたように感じます。担任をしていた当時、不登校だった子どもの家で、ギターを一緒に練習し続けたことがありました。その子の結婚式に招待してもらったときに、「先生のおかげで、ぼくは好きなギターの仕事をすることができたし、仲間を作ることができました」という言葉を聞き、とても感動しました。辛いことがあっても、「やっけていてよかった!」と思える瞬間のために、今後も努力を続けて欲しいと思います。



フィールドワーク活動報告

令和4年度のフィールドワークは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、推進分野ごとに見学先を決め、推進部員のみでの参加としました。

小学校地理分野「庄内川河川事務所」

8月1日に国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所を訪れ、庄内川流域における水害対策について説明をしていただきました。庄内川は、流域に住宅が多く、水を溢れさせることが極めて危険な地理的環境にあります。上流部にも下流部にも、ダムや遊水地を作って水を逃がすことが難しいため、高い堤防を築くよりも、川底の掘削工事を続けることで、水を溢れさせないようにしているとのことでした。

また、近年の気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に治水に取り組む社会を構築する必要があります。管理者による治水に加え、国・都道府県・市町村・企業・住民等が流域全体で行う治水「流域治水」への転換を進めています。下流域である名古屋市は、河口付近が埋め立てによって形成された土地であるため、高潮や液状化による被害に備える必要もあります。現在はホームページによる情報発信を進めていますが、さらに市民に関心をもってもらうためにも、防災教育を進めて子どもの意識を変え、保護者、地域の意識を変えていくことの重要性について話していただきました。



小学校歴史分野「関ヶ原史跡サイクリングと岐阜関ヶ原古戦場記念館」

8月3日に小学校歴史分野では、自転車で関ヶ原の史跡をめぐるサイクリングツアーと2020年にオープンした岐阜関ヶ原古戦場記念館に行ってきました。

まず、自転車で関ヶ原の史跡をめぐるサイクリングツアーを行いました。8月の酷暑の中、子ども達に楽しく、分かりやすい授業を目指して「石田三成陣跡」や「岡山烽火場」「福島正則陣跡」「島津義弘陣跡」「東首塚」「徳川家康最後陣跡」などの史跡をボランティアガイドと共に巡っていきました。自転車で史跡を巡ることで、当時の戦の距離感や地理的な様子を体感することができました。また、ボランティアガイドの話から、関ヶ原の地は中山道や北国街道などの道が通る交通の要衝であるため、東軍・西軍がその道をいかに通させないようにするかが戦の勝敗の鍵になっていたと伺いました。今も昔も戦の肝は交通だと知りました。史跡巡りを自分の足ですることやボランティアガイドの話から戦の生々しさを実感することができました。

次に、岐阜関ヶ原古戦場記念館を見学しました。刀や火縄銃、槍などを持つことができたり、映像資料が多かったりと体験をたくさんできる博物館でした。1階のシアターでは、オーバル(曲面)スクリーンと、振動・風・光・音などの演出により関ヶ原の戦いの始めから終わりまでを、将兵の視点で戦場に紛れ込んだかのような映像体験ができました。



小学校現代社会分野「守山いつき病院」

8月4日に守山いつき病院を訪れ、医療現場における医療情報のデジタル化やその課題についてお話をいただきました。守山いつき病院では、患者の情報を電子カルテ化することで、様々な部署での情報共有を容易にしていたり、訪問診療において、いつでも・誰でも同じ医療サービスが提供できるように活用したりしていました。また、八事日赤病院と連携し、電子カルテの共有をすることで、治療記録や検査結果などの情報を閲覧することができるようにしています。

一方で、電子カルテを病院間で共有するためには多くの課題がみられるようです。電子カルテを導入するためには、設備投資費が必要になることや運用するために医師や看護師のスキルアップが求められるなど、病院や診療所に多くの負担がかかるということです。また、個人情報が出す恐れがあるため、病院間での電子カルテの共有にも課題があるということでした。

今後は、クラウドを活用することで、設備投資などにかかるコストを低廉化し、データの広域利用を可能にしたり、すべての医療従事者が活用できるように人材育成に力を入れていったりする必要があります。についてお話していただきました。



中学校3分野合同「JICA中部なごや広場」

中学校では、地理・歴史・公民の3分野が合同でJICA中部なごや広場へ行き、見学をさせていただきました。なごや地球ひろばは、JICA 中部の交流棟1・2階にあり、国際協力をテーマに、世界や開発途上国の現状や抱えている問題を、体験型の展示を通じて学習ができる「体験ゾーン」、世界の料理が味わえる「食のゾーン(カフェ クロスロード)」、フェアトレードグッズが購入できる「買物ゾーン(フェアトレードショップ)」、活動できる「活動ゾーン(セミナールーム、市民活動ルーム)」などを備え、施設の中を JICA の担当者の方に案内していただき、“世界のいま”を学ぶことができました。

また、実際にアフリカで青年海外協力隊を行っていた方の講演を聞くことができ、現地に行かなければわからないこともたくさん学ぶことができました。

このように、自ら足を運び、2学期の実践に役立つような教材を探してフィールドワークを行うことを通して、子どもたちが目を輝かせるような教材を見付けることができました。



フィールドワークの様子をホームページやLINEにもアップする予定になっています。ぜひそちらの方もご覧ください。

若手躍動～授業力アップ研修グループ～

本年度も、6年目までの若手会員を対象に、社会科の授業を中心に教師としての力量向上を目指して、グループ研修を行っています。

授業力アップ研修グループでは、授業や教材について検討する以外にも、学級経営や日頃の悩みなど、様々な話題で話し合いを行っています。少人数のグループでの研修だからこそ、一人一人が能動的に取り組み、仲間とのつながりを深めていける場になっています。



【小学校での授業力アップ研修グループの様子】

【参加者の声】

- 学級での指導から教材研究に至るまで、いろいろな面でアドバイスをいただけるので勉強になります。
- 経験年数が近い仲間と悩みを共有し合い、解決の糸口を見付けたり、新たな学びを得たりするなど、毎回よい刺激を受けています。
- 学校でなかなか「社会の授業」について語り合う時間が取れない中で、短い時間ながらも中身の濃い議論をすることができる研修は、私にとって貴重な機会となっています。年齢こそ違いますが、社会科に対する思いは一緒だと思うので、熱く語り合うことができ嬉しいです！
- 皆さんの実践などを聞くことができ、とても勉強になりました。他の方から実践を聞いただけで、自分では気付かないところがたくさんあることが分かりました。
- 気軽に相談できる雰囲気が最高でした。みなさんの実践内容を聞いて、とても勉強になりました。

本年度、小学校では受講者が多様な研修を受けられるように、1グループに2人のリーダーがつき、交替で研修を行っていただいています。

～今後の予定～

- 9月 6日(火) 19:00～ 指導者研修会 (Zoom開催)
- 9月 8日(木) 19:00～ 小学校部会 (Zoom開催) ※推進部員は小幡小学校
【中学校部会は紙面開催】
- 9月 15日(木) 19:00～ 授業づくり講座 (Zoom開催)
- 9月 22日(木) 19:00～ ステップアップ研修全体会 (Zoom開催)
- 11月 10日(木)・11日(金) 第55回全国中学校社会科教育研究大会 名古屋大会
- 11月 25日(金) 19:00～ 名古屋市社会科同好会懇親会

社会科同好会のLINE公式アカウントがスタートしています。速やかに、かつ効果的に皆さまのニーズに合わせた情報を発信していきます。ぜひ、右のQRコードを読み取り友だち登録をお願いします。

